



はあとふる ふくしま

特集 「ダブルケア」から複合的課題支援を考える

シリーズ [未来へつなごう“ふくしま”から]
地域をワンチームで見守る「ばんげワンワン見守り隊」に密着!

ねえねえ、
今日はどこに行く?
明日は誰に会えるかな?
道案内なら任せてワン!

(ばんげワンワン見守り隊・
会津坂下町)



目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は音訳版および点訳版を作成しています。



「はあとふるふくしま」は作成経費の一部に、共同募金配分金及び特別賛助会員の寄付金を使用しています。

「ダブルケア」から 複合的課題支援を考える



近年、高齢化が進行する日本では、晩婚化、少子化が同時進行し、子育てと介護、障がい児者のケアと介護を同時に担う方が増えています。

さらに子育てと介護を抱える方自身がダブルケアに気づかないといったこともあります。また、家族等の介護が必要になった方が誰にも相談できずに仕事を辞めて、生活困窮に陥るなどの課題も生じています。しかしながら、子育て、障がい児者支援、介護が縦割りに制度設計されているため、横断的支援が難しいのが現状です。

今回はこのダブルケアの理解をはじめ、ダブルケア状態となった時に起こる離職や生活困窮等の課題を含めて、関係者がどのようにアプローチして支援するかを考えていきます。



子育てと家族の介護が重なる
ダブルケアは大きな負担となっています

■ 身近な問題に なりつつある ダブルケア

福島県社会福祉協議会では、今年2月にダブルケアをテーマに横浜国立大学の相馬直子先生をお招きして、セミナーを開催しました。このセミナーには、200名を超える福祉、医療、行政関係者が参加しました。セミナーではダブルケアの現状と課題についてお話を伺いました。

「ダブルケア」とは、育児と介護を同時に行う状況を言います。毎日新聞が今年1月に国の「就業構造基本調査」から独自に分析した推計値によると、2017年時点でダブルケアに直面している人は全国に少なくとも293,700人いるとされています。その中で、30〜40代の働く世代が9割を占め、離職を迫られる人も少なくありません。以前よりもダブルケアが身近な問



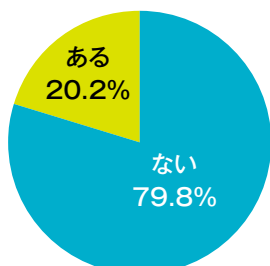
相馬 直子さん

横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授(社会政策学・福祉社会学)。主な著作に「ひとりやらない 育児・介護のダブルケア」2020年(山下順子と共著、ポプラ社)などがある。

題になりつつありますが、まだまだその認知は進んでいません。ソニー生命が行った「ダブルケアに関する調査2024」によると、大学生以下の子どもを持つ30〜59歳の男女(16,926名)に「ダブルケア」という言葉を聞いたことがあるか聞いたところ、認知率は約2割にとどまっています 図1。

図1

「ダブルケア」という言葉を聞いたことがあるか



ソニー生命「ダブルケアに関する調査2024」より(相馬直子教授提供資料)

■ **コロナ禍で増えた負担**
100人いれば100通りの
多様なケアがあります

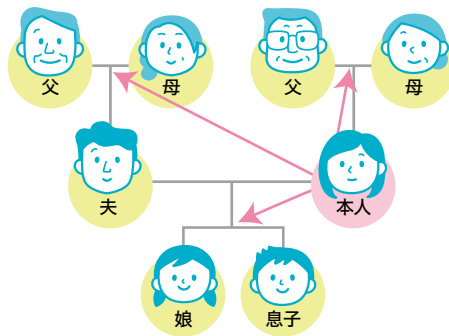
現在ダブルケアに直面している方の約3割が、コロナ禍で育児や介護の負担が増えたと回答しています。コロナ禍では福祉サービスが停止・縮小されたことから、育児や介護の負担が家族に集中しましたが、ダブルケアラー（ダブルケアをする本人）にとっても育児と介護の両方の負担が増えたことが明らかになりました。

ダブルケアラーの課題の一つとして、女性の負担が大きい点が挙げられます。「ケアは女性が担うもの」というジェンダー観がまだ根深く残っている現状があります。育児や介護を性別関係なく担うという意識の変革が必要です。また、当事者からは、支援内容が不十分だったり、手続きが煩雑だったりといった、複合ケアをめぐる切実な声が寄せられています。

ひとりでダブルケアと言っても、100人いれば100通りのダブルケアがあります。育児と親の介護だけでなく、配偶者・祖父母・兄弟・

親族・障がいをもつ子ども・孫のケアという、多様なケアの実態があります（図2）。

図2 **ダブルケアとは…家族の中にある複数のケア（介護と子育ての同時進行）**



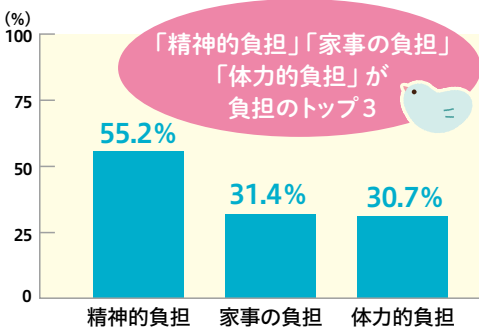
■ **専門職が共通認識をもち**
複合的課題への多職種
連携による支援を行う

ダブルケアラーの約7割が「地域でダブルケアラーがつながることが必要」と回答しています（図3）。ダブルケアラー支援のネットワークも広がりつつあり、地域の支援機関が連携し、ダブルケアやそのことに伴う困窮、ストレスによる精神疾患等の複合的課題を解決へと導く「重層的支援体制整備事業」※が、各地の自治体で始まっています。これまで

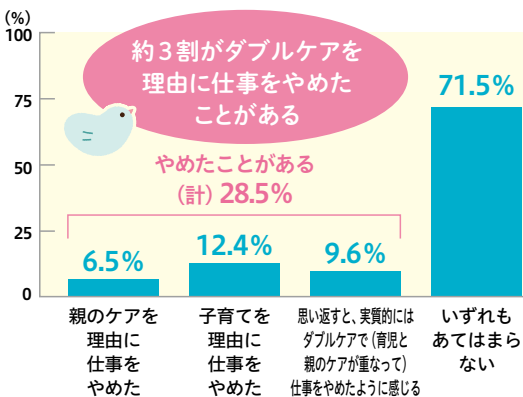
子育てなら子育て、介護なら介護と縦割りになっていた情報をまとめて、ホームページやセミナー等を通して、住民にわかりやすく伝えるといった取組も行われています。

福島県は、東日本大震災における原子力発電所事故の影響で、いまだに家族が別々に暮らしている世帯が多くあります。例えば、夫は被災地に住み、妻が避難しながら子どもや親と同居しているケースは、通常よりもダブルケアが起こりやすい環境にあると言えます。このような福島県特有のダブルケアの課題もあります。

子育てと親・義理の親のケア（見守り・世話・援助・介護・介助）とが同時期に重なったとき、負担に感じていたこと 上位3件

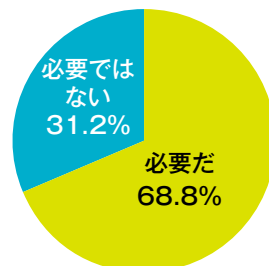


親のケアや育児、ダブルケアを理由に、仕事をやめたことがあるか



「ダブルケアに関する調査2024」で見えてきたこと

図3 **ダブルケアラーがつながる場を、地域でつくることは必要だと思うか**
 (例：地域でのおしゃべり会)
(単一回答形式) 対象：ダブルケアに直面している人



被災者支援に取り組んできた経験を活かし、専門職が共通の認識をもって「多職種連携」を行い重層的支援体制整備を進め、複合的課題への支援を行っていくことが大切です。

ソニー生命「ダブルケアに関する調査2024」より

ソニー生命「ダブルケアに関する調査2024」より



ダブルケアに対し 専門職が重層的に関わることから 地域共生社会へ



もり みき
森 美樹さん

伊達市保原地域包括支援センターの所長で社会福祉士(主任介護支援専門員、地域包括ケアを支える伊達ネットワーク委員会委員)。伊達地域の重層的の支援に取り組む。

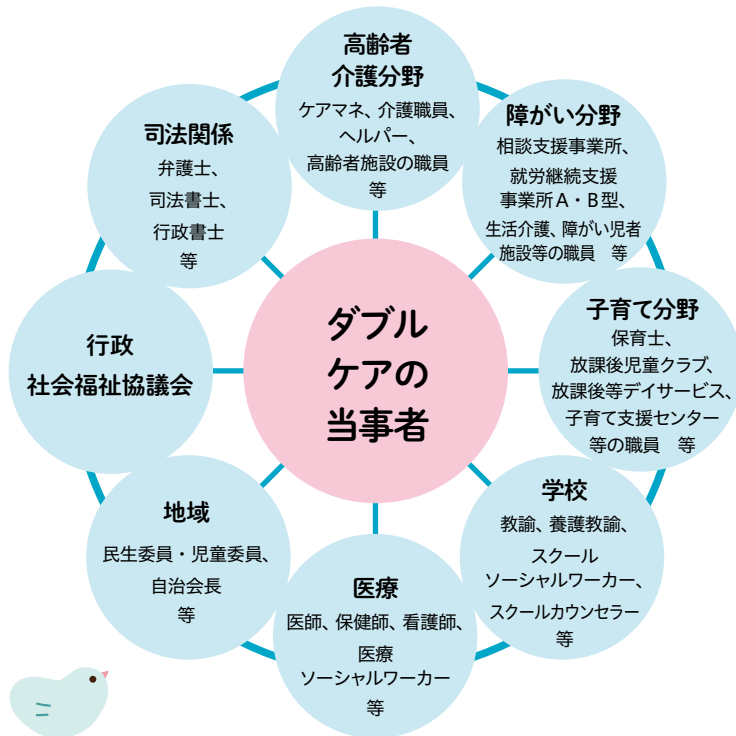
地域住民一人一人を地域全体で支え合っていく、ケアシステムの要となつているのが地域包括支援センターです。伊達市保原地域包括支援センターで、住民の複合的課題やダブルケアと向き合う所長の森さんに具体的な事例を挙げていただきながらお話を伺いました。

市町村が創意工夫し多職種が 分野を超えて連携できる 仕組みが求められています

左ページで紹介しているダブルケアのサポート事例のように、地域社会では、子育て、介護、障がい児者のケア、困窮、孤立、精神疾患などが、複雑に絡み合いながら様々な問題が起っています。

8050世帯※や子育てと介護とのダブルケア、世帯全体が孤立している状態などの問題を解決するには、例えば高齢者介護分野だけ、子育て分野だけといった支援体制では対応が難しい現状があります。複合化、制度上の狭間にある課題に対しては、分野を超えて多職種が連携す

子育て、介護、障がい児者支援、困窮、孤立、精神疾患等に対する多職種連携のイメージ(例)



る重層的な支援体制を、市町村が創意工夫して円滑に進める仕組みづくりが求められています。
伊達市の場合、介護、子育て、学校、医療等の分野間の連携を阻害しているのは何かを検討し、解消を図ることを大切にしてケアラー支援を図っています。

一つ一つの個別の課題を 共有してバックアップ していくことが 地域共生社会の実現に つながっていく

様々な情報が氾濫している現代では、自分に適した介護や生活支援サービスを選ぶには専門職のサポートが重要になっています。専門職は、ダブルケアラー本人もケアが必要という共通認識をもって、一つ一つの個別の課題を行政の担当者と共に、領域を横断して専門職が連携することが求められます。ダブルケアの当事者が専門職チームの支援を主体的に活用することが新しい家族・世帯の仕組みとなります。個々の家庭・世帯へのアプローチやサポートが、地域共生社会の実現のきっかけの一つとなると思います。

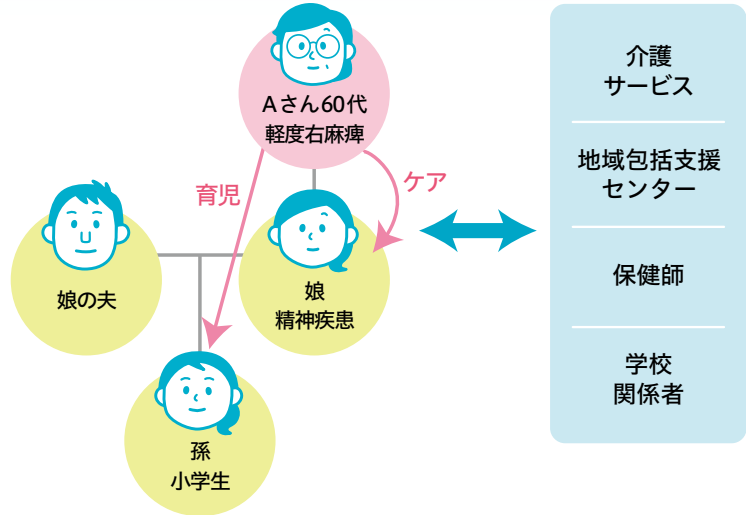
ダブルケアのサポート事例

※事例はあくまでダブルケアをご理解いただくために作成したものです。

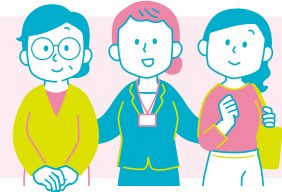
事例1 専門職同士のつながりをダブルケアの当事者が主体的に活用！

Aさん 60代女性

Aさんは介護サービスを受けながら孫の世話をしている状況で、Aさんだけでなく精神疾患のある娘も支援対象になっていました。Aさんからの相談を受け、保健師や学校関係者と連携しながら、孫のサポート体制強化を図りました。娘との関係を築くには数年かかりましたが、現在娘の症状は安定し、仕事をしています。娘の夫には今まで以上に家族を支えてもらうよう、専門職からの働きかけも行いました。Aさんが家庭内での役割を果たしながら、自分らしい暮らしを続けていけるようにサポートを続けています。



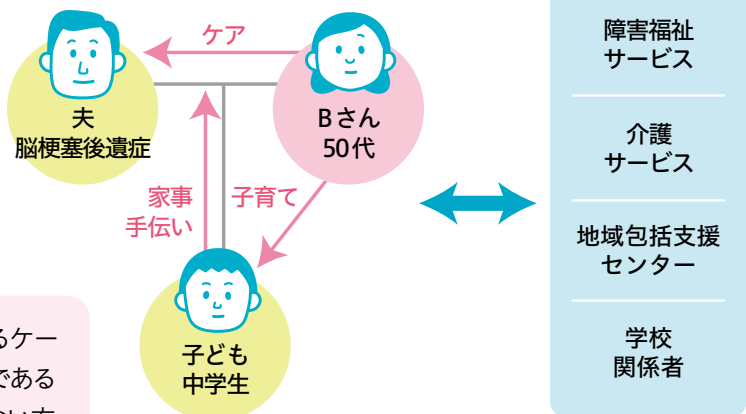
ダブルケアラーのサポートをしていく上で専門職同士がつながることももちろん重要ですが、当事者が専門職を主体的に活用できているかの視点を忘れないことが大切です。



事例2 「サービス利用」だけでなく専門職チームが「生活全般」をバックアップ！

Bさん 50代女性

経済的に困窮しているケースで、電気や水道などが止まるたびにBさんの実家に家族で寝泊まりし、障害年金が入ると自宅に戻ってくるような生活状況でした。家計のやりくり等も含め、ケアマネジャーをはじめ支援関係者が一堂に会して支援会議を行うようになったことで電気や水道などのライフラインが維持され、状況は少しずつ改善されるようになりました。



家計改善といった経済面での支援を必要とするケースが増えています。医療や介護のサービスも有料であることからサービスの利用をためらってSOSを出さない方もいます。そのような方には、生活全般の課題を専門職チームで把握し、役割分担をしながら継続的に支援する必要があります。

また、今後中学生の息子に必要な以上の負担がかかり、ヤングケアラーという状況にならないよう、専門職による世帯支援が求められます。



地域をワンチームで見守る 「ばんげワンワン見守り隊」に密着！



取材協力

社会福祉法人 会津坂下町
社会福祉協議会
会津坂下町地域包括
支援センター

河沼郡会津坂下町西南町
裏甲3998-1



隊員には帽子やリードにつけるプレートなどグッズが渡されます。

散歩中に地域の見守り活動を行う「ばんげワンワン見守り隊」の藤田成子さんと柴犬のアン隊員。



左から認知症地域支援推進員の二瓶桂子さん、生活支援コーディネーターの鈴木葉子さん。

「活動を始めたのは令和4年9月です。認知症高齢者の様子を確認する手段の一つとして、また住民が地域に関心を持つきっかけになればと『見守り隊』を導入しました」と認知症地域支援推進員の二瓶桂子さん。生活支援コーディネーターの鈴木葉子さんとともに、犬を飼っている友人や民生委員・児童委員に声を掛けて活動を開始。ボランティアセンターへの登録時に趣旨説明を受け、あとは普段の散歩中に町の様子にちよつとだけ注意を払い、たと

散歩がてら町内を見守る 29匹の隊員

会津坂下町では、犬の散歩中に地域を見守る取組として「ばんげワンワン見守り隊」（以下、「見守り隊」というボランティア活動が行われています。今回はその活動内容をレポートします。

取材当日、見守り活動に同行しました。今回密着したのは、アン隊員と飼い主の藤田成子さん。「毎

高齢者と飼い主、そして 住民が笑顔になる活動へ

えば郵便受けに新聞がたまっている、家の周りが散らかっている、同じ洗濯物が何日も出ているなど、気になることがあれば地域包括支援センターに報告する「ちよいボラ」活動です。無理なく続けられるよう、特別な研修や活動報告などはありません。気軽に参加でき、負担が少ないこともあってか、活動当初6匹（5名）だった隊員数は、約2年間で29匹（28名）まで増えました。

隊員たちはそれぞれ自分たちが住んでいる地域で見守っています。





赤い羽根で ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮 111 (福島県総合社会福祉センター内)
 電話 024-522-0822 FAX 024-528-1234
 メールアドレス akaihane@axe.locn.ne.jp
 ホームページ https://akaihane-fukushima.or.jp/

令和5年度収入支出決算報告

福島県共同募金会の令和5年度収入支出決算をご報告いたします。詳しい寄付金の使いみちについては県共同募金会ホームページや「赤い羽根データベース“はねっと”」で公開しております。

法人貸借対照表

勘定科目	当年度末
資産の部	
【流動資産】	507,795,113
現金預金	507,769,889
事業未収金	25,224
【固定資産】	108,449,835
基本財産	3,000,000
定期預金	3,000,000
その他の固定資産	105,449,835
車両運搬具	1
器具及び備品	175,973
ソフトウェア	319,305
無形リース資産	1,632,312
退職手当積立基金預け金	9,168,000
退職給付引当資産	2,947,920
基金積立資産	91,195,724
台湾基金積立資産	0
リサイクル預託金	10,600
資産の部合計	616,244,948

勘定科目	当年度末
負債の部	
【流動負債】	367,695,276
事業未払金	16,654
未交付配分金	328,971,870
1年以内返済予定リース債務	1,088,208
預り金	319,589
職員預り金	570,625
災害等準備金	36,728,330
R2年度災害等準備金	2,208,330
R3年度災害等準備金	11,740,000
R4年度災害等準備金	11,530,000
R5年度災害等準備金	11,250,000
【固定負債】	15,675,454
リース債務	544,104
退職給付引当金	15,131,350
負債の部の合計	383,370,730

純資産の部	
【基本金】	5,220,247
【その他の積立金】	91,195,724
基金積立金	91,195,724
台湾基金積立金	0
【次期繰越活動増減差額】	136,458,247
(うち当期活動増減差額)	-13,442,058
純資産の部合計	232,874,218
負債及び純資産の部の合計	616,244,948

令和6年3月31日現在【単位：円】

日アンの散歩中に住民の方とお話をしていたので、活動の趣旨を聞いてこれまで自分がやってきたことそのものだと思ひ登録しました。アンと一緒に楽しく散歩する中で地域の方々のコミュニケーションや、高齢者の方へのまなざし、また犬が人に与える癒し等、たくさん効果があると感じています。今後もささやかですが、地域の中で犬と触れ合うことによりお互いに笑顔になれるお手伝いができればと思っています」と話してくれました。どうやら「見守り隊」は高齢

者だけでなく、飼主と地域住民の笑顔にもつながる「三方よし」の活動と言えそうです。「町の皆さんに活動を知っていたが、見守り隊だけでなく、地域ぐるみで高齢者を見守ってほしいです」と鈴木さん。「二瓶さんは「今後も活動を続け、何かあれば気軽に地域包括支援センターに相談していただきたいです」と話します。これからも「見守り隊」は地域をやさしく見守るワンチームとして活動し、町内をワンダフルな地域にしていきたいです。



見守り活動中のひとコマ。「あれ、今日はデイサービス休みのなの？」と藤田さん。



今日も立派に見守りを務め、町内の様子を二瓶さんと鈴木さんに伝えるアン隊員。

県社協からのお知らせ 第32回『瓜生岩子賞』表彰候補者の推薦について

本県が生んだ社会福祉事業の先覚者・瓜生岩子^{うりゅういわことじ}刀自^{とうじ}は、幕末から明治にかけて激動の時代に社会慈善家として活躍し、今日の日本社会福祉の礎を築き、その功績が称えられ女性初の藍綬褒章を受章した人物です。



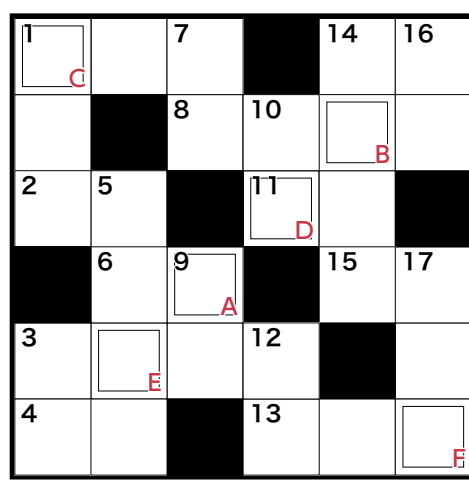
県社協では瓜生岩子の遺徳をしのび、その偉業を永く後世に伝えるため、岩子刀自の精神にふさわしい社会福祉に功績のあった方々を顕彰する『瓜生岩子賞』表彰制度を平成5年に創設し、今年度32回を迎えます。

皆様のお住まいの地域で熱心に活動をされている方や団体等のご推薦をお待ちしております。
※目録：主に年輩の女性を、敬意を添えて呼ぶ語

- 表彰の対象** 県内に在住し、永年にわたり社会福祉の分野においてその功績が特に顕著である個人及び団体
- 応募・推薦の方法** 指定の応募・推薦書様式に必要事項をご記入のうえ、**令和6年8月9日(金)まで**に提出願います。
●応募・推薦書様式は県社協ホームページからダウンロードしてください。
(県社協トップページの下段にある ▶**顕彰・表彰** → **瓜生岩子賞の案内**)
- その他** その他詳細については『瓜生岩子賞 表彰要綱』をご覧ください(県社協ホームページからダウンロードできます)。
令和4年度から一般の方(個人又は団体)が直接応募・推薦できるようになりました。

お問い合わせ先 福島県社会福祉協議会 いきいき長寿室
〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 福島県総合社会福祉センター2階
電話 024-524-2224 FAX 024-524-2228 URL https://www.fukushimakenshakyo.or.jp

クロスワードにチャレンジ!



- ▶ **ヨコのカギ**
- ジャガイモを英語で
 - は死して皮を留める。○に翼
 - ←本音
 - 日本に43あります
 - (笑)→w→www→○生える
 - 「この味がいいね」7月6日はサラダ○○○
 - 英語で気体のこと。漢字で「瓦斯」
 - 主食はユーカリの葉っぱ
 - 臭いものに○○をする
 - は昔 竹取の翁といふもの有りけり
- ▼ **タテのカギ**
- お手紙食べた赤いヤツ
 - かぐや姫はここから産まれました
 - 東北のプロ野球球団
 - は金なり
 - 文書でよく使われる敬称
 - ←ポジ
 - 環境にやさしい
 - 公園などで水をプッシャー!
 - かわいい子には○をさせよ
 - これが変わると眠れない人も

全部できたら二重ワクの文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。
A B C D E F

応募方法 ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。
締切 令和6年8月9日(金)
宛先 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでのご応募はこちら!



正解者の中から
抽選で3名に
プレゼントが当たる!

今月のプレゼント
ワークコスモス (郡山市)
4種のどうぶつクッキーとラスクの詰め合わせセット

当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。
多数のご応募ありがとうございました

6月号の正解 **「ツタワルイミ」** (伝わる意味)
※ご記入の個人情報適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

4・5月号に寄せられた 読者のおたよりから

表紙のお二人がとても幸せな笑顔で、見ていてほっこりしました。本が大好きな私なので、子どもたちに読み聞かせをしている岩代図書館ボランティアの方々の記事がとても良かったです。(71歳 無職)

集合住宅や地域で近所や集いの場で、人とのつながりを持つことが孤独、孤立を防いで、交流を持つことが生きがいにもつながる。昔の当たり前を今、自分達で作っていかねばならないのだと思いました。(21歳 保育士)

編集後記



当たり前を振り返ると、知らなかった自分の感情や気付かなかった課題に出会うことがあります。忙殺された毎日の中で足を止め、過去を見つめるのは勇気がいることですが、本誌を読むことがその助けとなり日常の息継ぎとなるよう願います。